

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400332		
法人名	株式会社 秀		
事業所名	グループホームとみおか (2F いこい)		
所在地	北海道函館市富岡1丁目51番20号		
自己評価作成日	平成26年1月27日	評価結果市町村受理日	平成26年2月25日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣の児童館の子供達の慰問や、近隣小学校との交流が少しずつ広がってきており、グループホームでの生活や認知症の理解が得られるよう今後も、交流を広げて行きました、季節を感じられる様外出する機会を多くして行きたいとご家族、ボランティアの協力を得ながらホーム一丸となり力を入れています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0191400332-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0191400332-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成26年2月20日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

**<職員の働きやすい環境づくり>**  
職員の離職率は低く、継続したケアサービスをチームとして取り組んでいる。また、職員個々の努力や実績、勤務状況の把握や希望休暇の取得、労働時間など各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。

**<家族等との連携・協力的体制づくり>**  
毎年のお花見行事では、ボランティアの協力を得たり、ご家族も参加し、継続した関係が途切れないよう支援している。また、家族と一緒に五稜郭に出かけてレストランでの食事会や夏祭りなど戸外に出かけられるよう支援もしている。地域の児童館に通う子供たちや小学校の生徒の体験学習の受け入れ等で交流に取り組んでいる。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り上げ、廊下、リビングの壁に掲示し、毎日の申し送りや毎月のユニット会議、合同会議の際に話し合い日々の業務を通じて理念を共有しその実践に繋がっている。	事業所独自の理念を作り上げ、各ユニット会議や合同会議で話し合い、理念を共有し、その実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	昨年も児童館の子供達の慰問や、近隣小学校の訪問、夏祭り開催と地域との交流を深めている。	地元小学生の体験学習の受け入れや地域の児童館に通う子供たちとの交流、七夕祭りに地域の人々の参加を呼び掛けたり、演芸や歌唱等のボランティアの受け入れで、地域の人々との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの見学はいつでも自由に行っており、児童館の子供達との交流や近隣小学校との交流により地域や家族への理解を深めてもらうよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年6回実施しており、ご家族参加行事や活動の状況報告について具体的に意見交換し、サービス向上へと生かし、結果はご家族へ報告している。	年6回を目安に運営推進会議を開催し、日常生活の様子や介護用品の使用方法など具体的内容について意見交換し、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から担当者と連絡を取り合い運営推進会議を通じて情報交換を行い、ケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら協力関係を築いている。	市担当者とは、運営推進会議や日常業務を通じて情報交換を行い、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎日の申し送り、毎月の全体会議、ユニット会議と職員全員で身体拘束や高齢者虐待防止について話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全体会議やユニット会議で指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を話し合い、正しく理解しており、身体拘束廃止や高齢者虐待防止に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	申し送りや会議の場で、新聞記事や資料等で自分達のケア方法に問題はないか常に話題に挙げ入居者様本位のケアに心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ホームで成年後見人制度を使用している方がおり、そのため司法書士と不明な点はお聞きし、ご家族様には運営推進会議を通じてご説明させて頂き、不明な点は司法書士に聞きながら対応させて頂いています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は契約書、重要事項説明書の内容をご家族様に説明し理解・納得を得て捺印して頂いている。また、体調変化時の対応についても話し合いの場を設けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来訪時に意見や苦情、要望等を直接言ってもらえるよう働きかけ、また、玄関先に意見箱を設けたり運営推進会議では、区長、包括支援センター等・児童館館長の意見も聞き入れ改善に向け取り組んでいます。	本人の特徴的な一日の様子を「一日一行日記」で家族に情報提供している。また、家族や来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるように玄関に意見箱を設置している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議、ユニット会議と日常業務を通じて意見や要望、提案を聴く機会を設け運営に反映出来る様にしている。	全体会議やユニット会議で職員の意見や要望、提案を聞くよう機会を設け、そこでの意見を運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年末の賞与、新年度に昇給等の見直し、労働時間の要望等、また年度内においても資格習得者については、給料段階を設定している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会を確保し、他の職員には研修内容をいつでも閲覧できるようにしている。介護内容については専門業者をお願いし実施指導も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流する機会は少ないが、他勉強会時は職員が積極的に参加出来る様にしサービスの向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人・御家族と面談し心配事、不安に思っている事等をアセスメントし安心して頂ける様心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、ご家族との面談時のアセスメントをしっかりと行い要望を聞き入れながら安心して頂ける様、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族との面談時、要望、意見等の情報分析し一番必要なサービスの支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、モップ掛け、食器拭き等を職員、他入居者様と一緒にし、コミュニケーションを図りより良い関係作りを築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族との連絡を密にし共に同じ方向性を持ち、ご家族関係を大切にしながら支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がこれまで大切にしていた友人、知人達が来訪しやすい環境作りをし、馴染みの人たちとの交流が途切れない様支援している。	家族と一緒に五稜郭に出かけて食事をしたり、友人・知人の訪問支援で馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎月の行事や、ドライブ等また、毎日の日課等で入居者様同士が関わり合えるよう支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族様の相談等に応じ、関係を断ち切らない様にいつでも相談に応じられる体制をとっている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様やご家族の思いや暮らし方の意向の把握に努めると共に、毎日の申し送りの中から本人の思いを把握し職員間で共有し、常にその人らしく生活が送れるよう支援している。	家族等からの要望や意見や一人ひとりの希望や意向の把握に努め、本人本位に支援できるように検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にご本人、ご家族からの聞き取りにより、今までの暮らし、環境、サービス利用の経過の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り、コミュニケーションを通じて一日の過ごし方、心身状態等を把握し職員間で情報を共有しその日、その人が望む生活が出来る様努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族様の意向も含め、毎日の申し送りを通して、ご本人がより良い生活を送れるよう介護計画を作成し支援している。	本人、家族の意向や要望、カンファレンス、モニタリングで職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を作成記録し、毎日の申し送りやユニット会議時に個別のカンファレンスを行い介護計画に反映させている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々必要性に対応出来る様、ホーム一丸となり、情報を共有し支援やサービスに対して柔軟に対応出来る様努めている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要性に応じて、ボランティア、消防、教育機関等と協力しながら支援をしている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及びご家族様の希望するかかりつけ医と密な関係を築きながら、定期的な医師の往診や訪問看護の利用で適切な医療を受けられるよう支援している。	定期的な往診や訪問看護の利用、通院への支援で適切な医療を受けられるように支援している。また、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1か月に1度の往診、週1度の訪問看護で体調報告又、変化時は随時連絡を取り支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は病院関係者や、ご家族と密に連絡をとり、ご本人の体調や、病状に合わせた対応が出来る様、病院関係者との関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状に合わせ、早い段階からご本人、ご家族の希望や意向を踏まえ、ご家族、主治医、事業所、病院関係者と話し合い方向性を決め支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ができることを十分に説明しながら職員間で方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルを掲示、スタッフ全員が周知していると共に医療連携看護師、主治医に連絡を取り指示を仰いでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ご家族、包括、近隣等の避難訓練参加と消火活動に加わって頂いたり、消防の講話やホームの防災点検担当者等の避難方法を聴き参考にしながら協力体制を築いている。	スプリンクラーや防火扉、火災報知器や通報装置等の整備を完備し、定期点検も実施している。また、消防署の協力のもと、年2回昼夜間を想定した実技を伴う避難訓練を実施している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	顔馴染みである事を意識づけ一人ひとりの人格を尊重するような声掛けを心がけて対応している。	全体会議やユニット会議で、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を職員間で話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が選択出来る様な声掛けや、自己決定が出来る様支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時々一人ひとりのペースを把握し希望に沿う様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性入居者様の髭剃りは、出来る方は見守りの中行って頂き、また1～2ヶ月に訪問理容を利用して、洋服については好みの中から選んで頂く様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価	
			自己評価 実施状況	外部評価 実施状況 次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力を生かしながら調理や食事の準備、食器拭き等を負担にならない様支援している。	一人ひとりの力を活かしながら、嗜好や体調に合わせて食事の準備や後片付けなど支援をしている。また、家族と一緒にの外出や出前など食事が楽しみなものになるよう支援している。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日のトータルを参考に、栄養確保が出来ていないような時は一人ひとりに合わせ刻みトロミ等を使用し、毎回の摂取量を把握しながら支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け見守り、支援が必要な人には介助で口腔ケアをしている。	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックで一人一人の排泄パターンを把握し、プライバシーに考慮した声掛けを行い、出来る限りトイレで排泄出来る様支援している。また、歩行ふらつき等で夜間トイレに間に合わない入居者様は、居室にポータブルトイレを活用し出来る限りオムツを使用しない様支援している。	専門家を招いて、オムツの使用方法や種類など家族と一緒に講習を受けている。また、一人ひとりの力や排泄パターンを排泄チェック表で把握し、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、野菜嫌いな人には摂取して頂ける様な工夫をし、また運動不足時は、廊下歩行と個々に合わせた取り組みや、医療との連携も図っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その時の身体状況や本人が楽しく入浴出来るよう誘導方法や声掛けの工夫をし支援している。	入浴拒否の強い利用者にも柔軟な支援をしている。また、週2回を目安に一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて入浴支援をしている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣も考慮した、その時の状況に応じて気持ちよく休める様支援している。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報により個別に把握し経過観察と、医療連携看護師の毎週の訪問により、随時変化時対応を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の基本情報を共有し、役割を持ち楽しく暮らせる様、一人ひとりに合わせて気分転換を図り支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム近くの店迄の買い物・散歩・誕生会ではイベント企画し気分転換を図っている。また、毎年のお花見行事ではご家族も参加されボランティアの協力も得ながら支援し、ご家族一緒にの食事や外出の支援も行っている。	毎年のお花見行事では、ボランティアの協力を得たり、ご家族も参加し、継続した関係が途切れないよう支援している。また、家族と一緒に五稜郭に出かけてレストランでの食事会や夏祭りなど戸外に出かけられるよう支援も行っている。	団体や個人別で楽しめるアクティビティを充実させていくよう職員間で話し合っているのので、その実践に期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理出来る入居様には、一人ひとりの希望や力に応じてお金を渡し、安心して頂ける様にすると共に職員同行で安心して買い物が出来る様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からの電話連絡があった時は、取次を行っています。電話の支援も行っており、遠方におられるご家族へは手紙の支援も行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は清潔を保ち、居心地が良い様に配慮し花を置いたり、毎月のとみおか便りでは入居者様とご家族の写真を載せたり行事の様子を壁に張り工夫している。	共用空間には、行事参加の写真や習字等の利用者の作品が掲示されるなど清潔感や季節感が感じられるよう工夫している。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外にも廊下にソファ・椅子を配置し好きな時に、いつでも過して頂ける様にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族と入居前に相談し今まで使用していた物を持参していただいたり、ご本人が以前と変わらず過して頂ける様支援している。	居室には、使い慣れた家具や寝具等が持ち込まれたり、家族等の写真が掲示され本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	解りやすく居室前にネームプレートや造花等で目印を付けたり、解りづらい所には張り紙を貼って解りやすくし、その都度工夫している。		



## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400332		
法人名	株式会社 秀		
事業所名	グループホームとみおか (3F いずみ)		
所在地	北海道函館市富岡1丁目51番20号		
自己評価作成日	平成26年1月27日	評価結果市町村受理日	平成26年2月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2013\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=0191400332-00&PrefCd=01&VersionCd=022](http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0191400332-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成26年2月20日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣の児童館の子供達の慰問や、近隣小学校との交流が少しずつ広がってきており、グループホームでの生活や認知症の理解が得られるよう今後も、交流を広げて行きました、季節を感じられる様外出する機会を多くして行きたいとご家族、ボランティアの協力を得ながらホーム一丸となり力を入れています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り上げ、廊下、リビングの壁に掲示し、毎日の申し送りや毎月のユニット会議、合同会議の際に話し合い日々の業務を通じて理念を共有しその実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年も児童館の子供達の慰問や、近隣小学校の訪問、夏祭り開催と地域との交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの見学はいつでも自由に行っており、児童館の子供達との交流や近隣小学校との交流により地域や家族への理解を深めてもらうよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年6回実施しており、ご家族参加行事や活動の状況報告について具体的に意見交換し、サービス向上へと生かし、結果はご家族へ報告している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から担当者と連絡を取り合い運営推進会議を通じて情報交換を行い、ケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎日の申し送り、毎月の全体会議、ユニット会議と職員全員で身体拘束や高齢者虐待防止について話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	申し送りや会議の場で、新聞記事や資料等で自分達のケア方法に問題はないか常に話題に挙げ入居者様本位のケアに心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ホームで成年後見人制度を使用している方がおり、そのため司法書士と不明な点はお聞きし、ご家族様には運営推進会議を通じてご説明させて頂き、不明な点は司法書士に聞きながら対応させて頂いています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は契約書、重要事項説明書の内容をご家族様に説明し理解・納得を得て捺印して頂いている。また、体調変化時の対応についても話し合いの場を設けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来訪時に意見や苦情、要望等を直接言って頂けるよう働きかけ、また、玄関先に意見箱を設けたり運営推進会議では、区長、包括支援センター等・児童館館長の意見も聞き入れ改善に向け取り組んでいます。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議、ユニット会議と日常業務を通じて意見や要望、提案を聴く機会を設け運営に反映出来る様にしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年末の賞与、新年度に昇給等の見直し、労働時間の要望等、また年度内においても資格習得者については、給料段階を設定している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会を確保し、他の職員には研修内容をいつでも閲覧できる様にしている。介護内容については専門業者をお願いし実施指導も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流する機会は少ないが、他勉強会時は職員が積極的に参加出来る様にしサービスの向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人・御家族と面談し心配事、不安に思っている事等をアセスメントし安心して頂ける様心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、ご家族との面談時のアセスメントをしっかりと行い要望を聞き入れながら安心して頂ける様、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族との面談時、要望、意見等の情報分析し一番必要なサービスの支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、モップ掛け、食器拭き等を職員、他入居者様と一緒に行う事で、コミュニケーションを図りより良い関係作りを築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族との連絡を密にし共に同じ方向性を持ち、ご家族関係を大切にしながら支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がこれまで大切にして来た友人、知人達が来訪しやすい環境作りをし、馴染みの人たちとの交流が途切れない様支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎月の行事や、ドライブ等また、毎日の日課等で入居者様同士が関わり合えるよう支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族様の相談等に応じ、関係を断ち切らない様にいつでも相談に応じられる体制をとっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様やご家族の思いや暮らし方の意向の把握に努めると共に、毎日の申し送りの中から本人の思いを把握し職員間で共有し、常にその人らしく生活が送れるよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にご本人、ご家族からの聞き取りにより、今までの暮らし、環境、サービス利用の経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り、コミュニケーションを通じて一日の過ごし方、心身状態等を把握し職員間で情報を共有しその日、その人が望む生活が出来る様努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族様の意向も含め、毎日の申し送りを通して、ご本人がより良い生活を送れるよう介護計画を作成し支援している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を作成記録し、毎日の申し送りやユニット会議時に個別のカンファレンスを行い介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々必要性に対応出来る様、ホーム一丸となり、情報を共有し支援やサービスに対して柔軟に対応出来る様努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要性に応じて、ボランティア、消防、教育機関等と協力しながら支援をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及びご家族様の希望するかかりつけ医と密な関係を築きながら、定期的な医師の往診や訪問看護の利用で適切な医療を受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1か月に1度の往診、週1度の訪問看護で体調報告又、変化時は随時連絡を取り支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は病院関係者や、ご家族と密に連絡をとり、ご本人の体調や、病状に合わせた対応が出来る様、病院関係者との関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状に合わせ、早い段階からご本人、ご家族の希望や意向を踏まえ、ご家族、主治医、事業所、病院関係者と話し合い方向性を決め支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルを掲示、スタッフ全員が周知していると共に医療連携看護師、主治医に連絡を取り指示を仰いでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ご家族、包括、近隣等の避難訓練参加と消火活動に加わって頂いたり、消防の講話やホームの防災点検担当者等の避難方法を聴き参考にしながら協力体制を築いている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	顔馴染みである事を意識づけ一人ひとりの人格を尊重するような声掛けを心がけて対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が選択出来る様な声掛けや、自己決定が出来る様支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時々一人ひとりのペースを把握し希望に沿う様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性入居者様の髭剃りは、出来る方は見守りの中行って頂き、また1～2ヶ月に訪問理容を利用して、洋服については好みの中から選んで頂く様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力を生かしながら調理や食事の準備、食器拭き等を負担にならない様支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日のトータルを参考に、栄養確保が出来ていないような時は一人ひとりに合わせ刻みトロミ等を使用し、毎回の摂取量を把握しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け見守り、支援が必要な人には介助で口腔ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックで一人一人の排泄パターンを把握し、プライバシーに考慮した声掛けを行い、出来る限りトイレで排泄出来る様支援している。また、歩行ふらつき等で夜間トイレに間に合わない入居者様は、居室にポータブルトイレを活用し出来る限りオムツを使用しない様支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、野菜嫌いな人には摂取して頂ける様な工夫をし、また運動不足時は、廊下歩行と個々に合わせた取り組みや、医療との連携も図っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その時の身体状況や本人が楽しく入浴出来るよう誘導方法や声掛けの工夫をし支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣も考慮した、その時の状況に応じて気持ち良く休める様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報により個別に把握し経過観察と、医療連携看護師の毎週の訪問により、随時変化時対応を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の基本情報を共有し、役割を持ち楽しく暮らせる様、一人ひとりに合わせて気分転換を図り支援をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム近くの店迄の買い物・散歩・誕生会ではイベント企画し気分転換を図っている。また、毎年のお花見行事ではご家族も参加されボランティアの協力も得ながら支援し、ご家族一緒にの食事や外出の支援も行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理出来る入居様には、一人ひとりの希望や力に応じてお金を渡し、安心して頂ける様にすると共に職員同行で安心して買い物が出来る様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からの電話連絡があった時は、取次を行っていますが、電話の支援も行っており、遠方におられるご家族へは手紙の支援も行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は清潔を保ち、居心地が良い様に配慮し花を置いたり、毎月のとみおか便りでは入居者様とご家族の写真を載せたり行事の様子を壁に張り工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外にも廊下にソファ・椅子を配置し好きな時に、いつでも過して頂ける様にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族と入居前に相談し今まで使用していた物を持参していただいたり、ご本人が以前と変わらず過して頂ける様支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	解りやすく居室前にネームプレートや造花等で目印を付けたり、解りづらい所には張り紙を貼って解りやすくし、その都度工夫している。		



### 目標達成計画

#### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	近隣にある児童館の児童訪問回数は多くなってきているが、入居者様の訪問は少ないため出来る限り外出出来るよう支援して行く。	天気が良い日は児童館への訪問外出を支援して行きたい。	体調に合わせ、気候に配慮しながら外出支援をして行く。	1年
2	48	日々の暮らしがマンネリ化しない様に、張り合いが持てるよう支援して行く。	個別対応と団体に楽しめるようアクティビティを支援して行く。	個別、団体に楽しめるアクティビティを職員全体で考えて支援して行く。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。